

施工BIMの最新動向2025

2025.12.17

日本建設業連合会

建築生産委員会 BIM部会長

曾根 巨充

(前田建設工業株式会社)

施工BIMのインパクト | 今年で11年目です

今回は【事前収録+WEB開催】です（「施工BIMのインパクト」は2015年から始まっています）



施工BIMのインパクト2020

2020.12.04

@WEB（事前収録）

主催：日刊建設通信新聞社

施工BIMのインパクト2021

2021.11.25

@WEB（事前収録）

主催：日刊建設通信新聞社

施工BIMのインパクト2022

生産性向上からDXへ

2022.12.13

@WEB（収録は公開）

主催：日刊建設通信新聞社

施工BIMのインパクト2023

現場デジタル化への道筋

2023.12.05

@WEB（事前収録）

主催：日刊建設通信新聞社

施工BIMのインパクト2024

現場デジタル化への道筋

2024.11.07

@WEB（事前収録）

主催：日刊建設通信新聞社

視聴者：

2,189名

※オンデマンド期間含む

視聴者：

1,210名

※オンデマンド期間含む

視聴者：

1,400名

※オンデマンド期間含む

視聴者：

1,142名

※オンデマンド期間含む

視聴者：

1,075名

※オンデマンド期間含む

施工BIMのインパクト2025

日建連 | 建設業の長期ビジョン2.0 (202507)

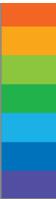
スマートなけんせつのチカラで未来を切り拓く

— 建設業の長期ビジョン 2.0 —



近年のデジタル・AI技術の進展には目を見張るものがあり、これらが、**労働集約的な面の強い建設産業の生産性を飛躍的に向上させ、建設現場をより魅力的なものに大きく変革する可能性**もあり、できる限りその見通しを示す必要がある。

本講演ではBIMに関する取り組みの視点と今後の方針性について全体像を概観



アジェンダ

- 1 はじめに | 現状の整理 (2025)
- 2 日常業務で確立から定着を目指す (2030)
- 3 取り組みに関する視点 (例)
- 4 おわりに | 今後の方向性

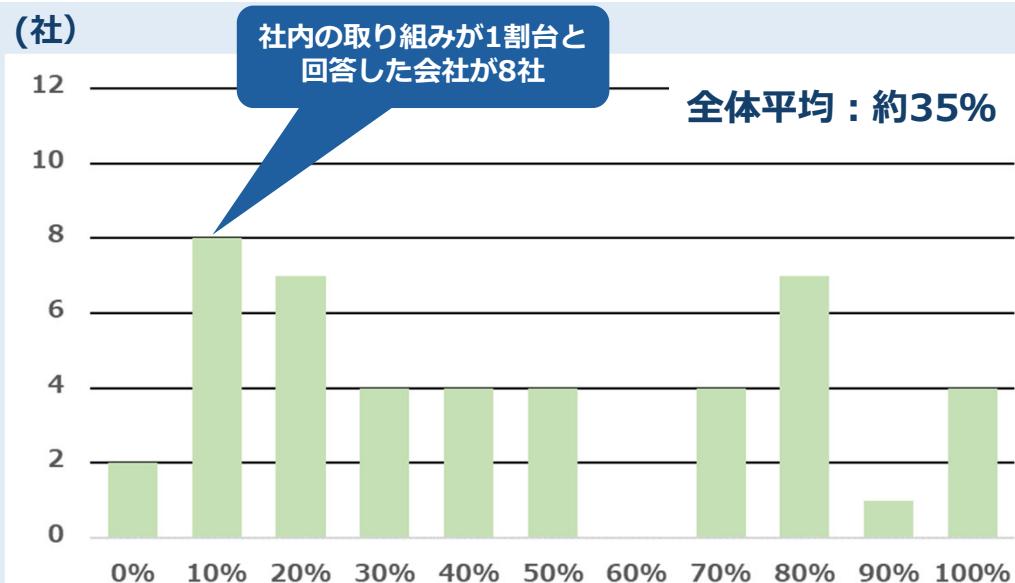
はじめに | 現状の整理 (2025)



BIMの現状 | 二極化の傾向（設計・施工とも）

設計BIMへの取り組み

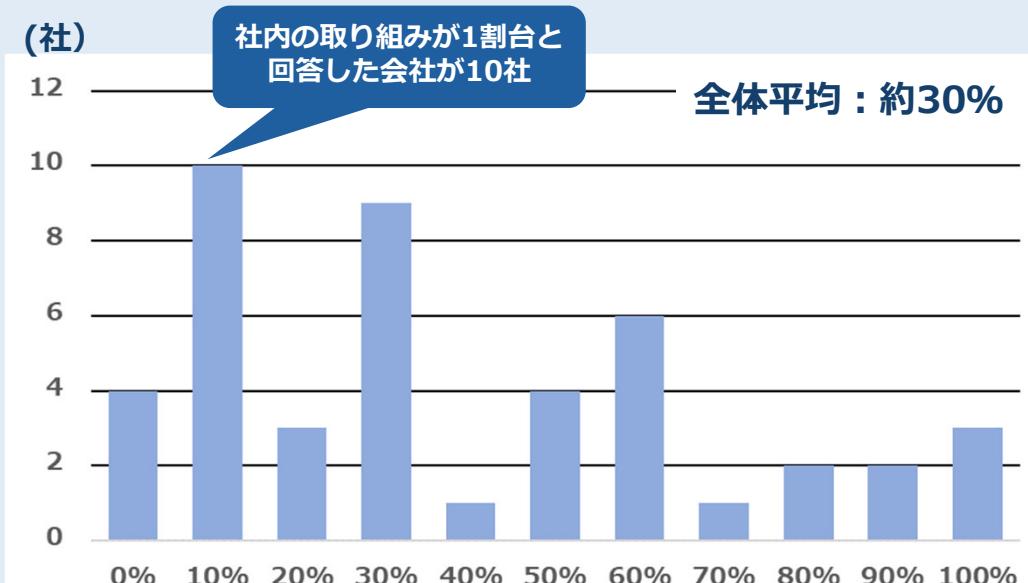
n=45社



▲ 設計BIMに取り組んだ案件の割合

施工BIMへの取り組み

n=45社



▲ 施工BIMに取り組んだ案件の割合

◎多くの企業でBIMの取り組みが進んでいる。二極化の傾向であるが、取り組みは深化していると推察

連携 | 設計⇒施工、専門工事会社とも増加

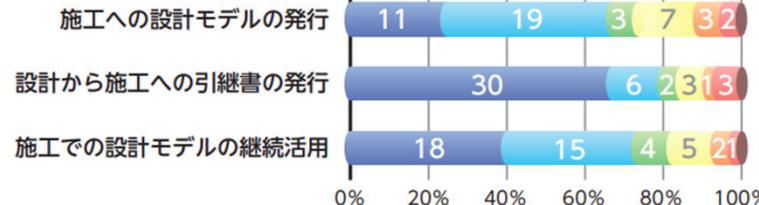
設計と施工のデータ連携

n=45社

アンケート2023

【PJの活用度合いの分布】

(回答45社)



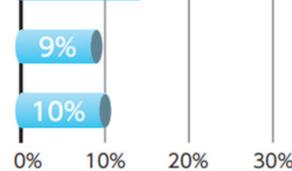
【平均活用率】



(回答44社)

設計から施工に発行された設計モデルの受領

【PJの活用度合いの分布】



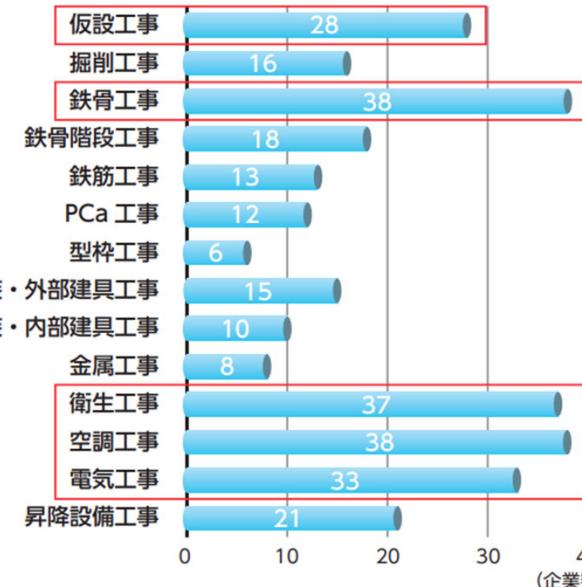
【平均活用率】

0% 10%~20% 30%~40% 50%~60% 70%~80% 90%~100%

専門工事会社とのデータ連携 n=45社

アンケート2023

(回答45社、複数回答可)



▲ 工種別の専門工事会社との連携

▲ 設計と施工のデータ連携 (上段が設計施工一貫発注、下段は設計施工分離発注の場合)

活用 | 計画・検討は多いが施工管理の適用が停滞

計画・検討 | バーチャル

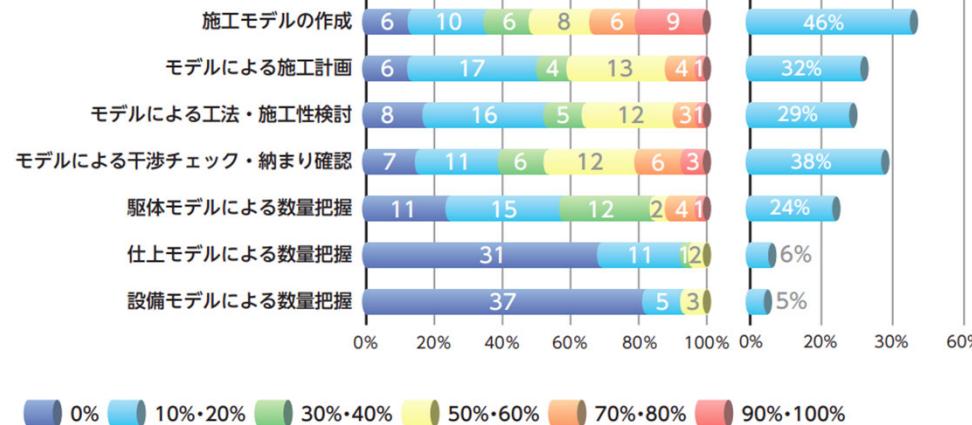
n=45社

アンケート2023

[PJの活用度合いの分布]

[平均活用率]

(回答45社)



▲プロジェクトの活用度合 (施工BIM)

- ◎ とりあえずBIMのモデル作成は定着
- ◎ 施工計画や干渉確認では活用度合が高い

管理・製作・活用 | フィジカル

n=45社

アンケート2023

[PJの活用度合いの分布]

(回答45社)

[平均活用率]

(回答45社)

打合せ・合意形成に活用

資材・搬送管理に活用

躯体モデルを進捗管理に活用

仕上モデルを進捗管理に活用

設備モデルを進捗管理に活用

躯体モデルを品質管理・検査に活用

仕上モデルを品質管理・検査に活用

設備モデルを品質管理・検査に活用

xRを合意形成・施工管理に活用

共通データ環境の活用



[平均活用率]

(回答45社)

42%

6%

9%

3%

4%

4%

11%

6%

8%

10%

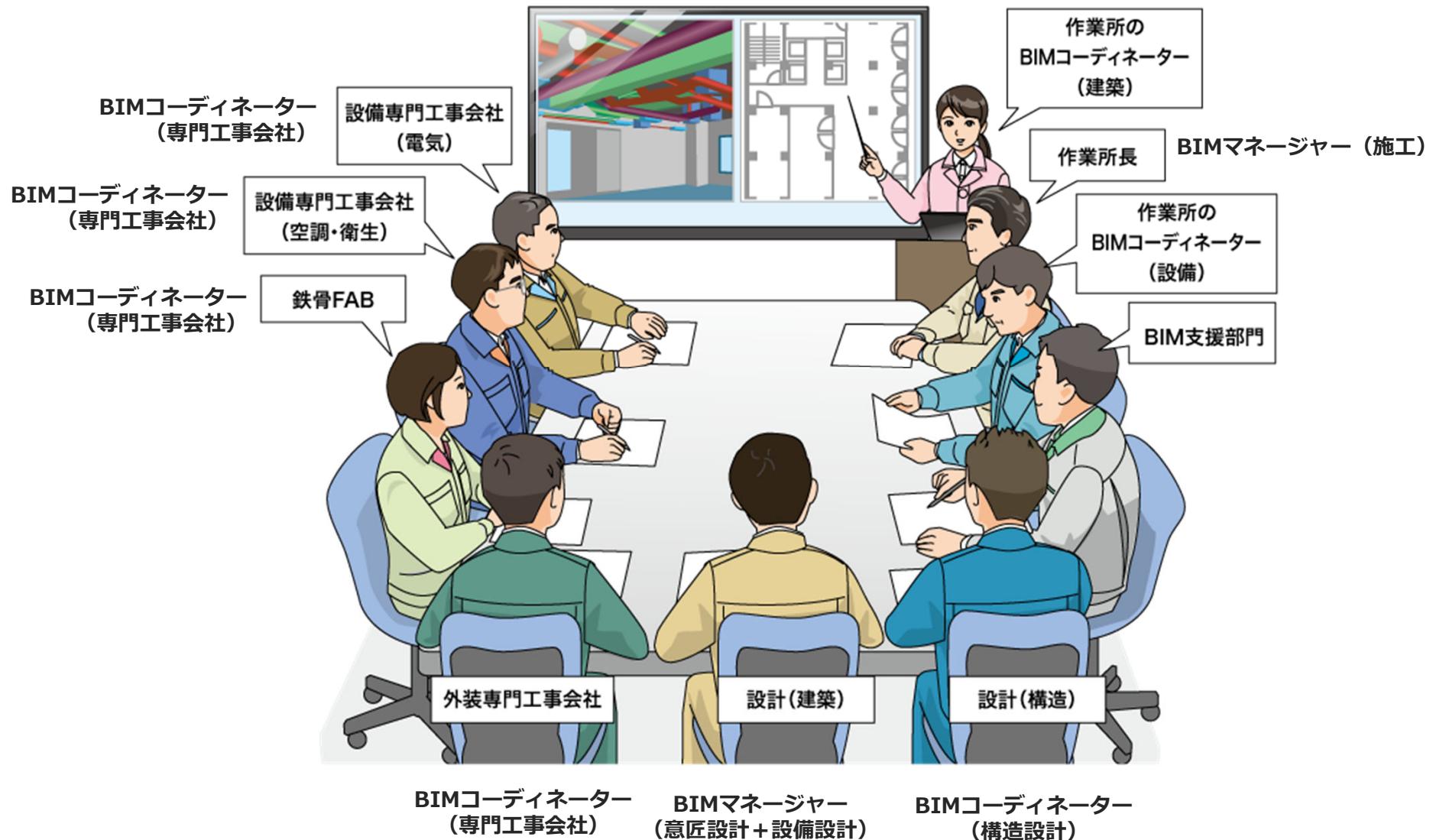
24%

24%

▲プロジェクトの活用度合 (施工BIM)

- ◎ 打合せ・合意形成での活用は定着しつつある
- ◎ 施工管理業務などでは活用が少ない (BIMだけでは難しい)

日常業務で確立から定着を目指す（2030－）



取り組む？取り組まない？から取り組むことが前提

2050年 | 建設業はさらに進化

2050年を目標時点とするのは、その時代の建設業の中核を担うこととなる今の若い人たちに夢と希望を抱いてもらうとともに、建設業のことをよく知らない方々に少しでも建設業の将来への理解を深めてもらう

第3章 2050年の建設業の姿

AIやロボットの活用によるデジタル化が進展

建設業従事者の役割・作業環境・労働条件、生産体制が抜本的に変革

高度な技術・技能を持つ
プロフェッショナルの集合体

- 技能労働者の労働内容はより進化し、高技能・高収入なプロフェッショナルなものに
- オフィスからロボットを遠隔管理
- 技術者と技能労働者の融合やマルチタスク化の進展
- 仮想空間や遠隔作業の実現で、事業展開がボーダレスに

安全・安心社会の
「守り手」

- 先端技術等を活用した予防保全型のメンテナンスの実施
- 災害時に広域応援体制を構築
- 危険地での遠隔操作による迅速な復旧を実現
- 高効率な生産プロセスによる早期復興を実現

飛躍的な技術革新でスマートに生産する
次世代現場

- 建築物や資機材の工業化・規格化・モジュール化が普及
- 完全自動施工により、時間や天候の影響が最小限に
- 単品受注生産・現地施工方式は、プレミアムな建築物を求める顧客層向けの高価値のサービスに

未来のまち、国、世界、フロンティアを拓く
「イノベーター」

- 社会的課題に建設業が企画・開発・運営の全段階で貢献
- 技術力で世界の持続的な発展を先導
- 未知領域で建設業が先端技術提供

▲ 2050年の建設業の姿

図版出典：建設業の長期ビジョン2.0、日本建設業連合会、2025.7

2035年 | 2050年に向けて10年が大きなカギ

(2050年に向けて) 進化の道筋を歩んでいくには今後の10年が大きなカギを握ることから、(中略) 建設業が、当面の危機を克服して、2050年に向かってイキイキと突き抜けていくように具体的な方策を提示

具体的方策 生産性向上

目標 2025年比で、生産性を25%向上

建設現場における
施工のオートメーション化・スマート化

- 工業化（プレキャスト化、3Dプリント等）・規格化の推進
- 自動運転技術・自律型重機等の導入 など

デジタル技術を活用した
建設プロセス全体に亘る省人化・省力化

- BIM/CIM、XR技術、ドローン、ロボットの活用

具体的方策 多様化する新たな社会的課題の解決への貢献

目標 施工段階におけるCO₂排出量を2013年度比60%削減

地域社会・国への貢献
(まちづくり、エネルギー)

- 老朽化したインフラの長寿命化のための技術提案
- 都市のエコシステム化への技術貢献

地球環境保全への貢献

- 「カーボンニュートラル」の実現に向けた設計、施工等各段階での取組み
- ネイチャーポジティブの実現に向けた建設活動手法の研究開発と普及促進

世界への貢献

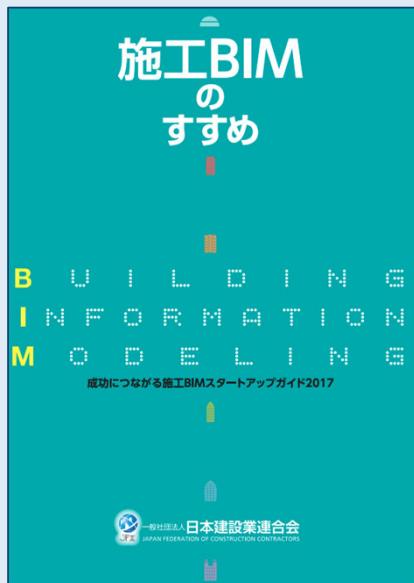
- アジア・アフリカ地域への質の高いインフラ提供
- 「課題先進国」日本の建設業として、環境、エネルギー、交通、災害等の技術やノウハウを諸外国に提供

▲ 生産性向上 (2035年に向かって)

施工BIMのインパクト2025

施工BIM | 目的や取り組み項目はほぼ確立

はじめ方



▲発行：2017.11

すすめ方



▲発行：2021.3（2014の改訂）

つかい方



▲発行：2022.12（第2版）

▲発行：2025.6（増補第3版）

- 【課題解決】建築生産プロセスにおける積年の課題は変わらない（整合性／可視化／情報共有基盤）
- 【時代変化】建設業以外の産業の技術革新と融合（AI等） | 【プロセス】再評価・最適化（FL/DfMA※／BOM※※）

※DfMA:建築の工場生産化のこと。1990年代からの英国の政策課題のひとつ。Design for Manufacturing and Assemblyの略称
※※BOM:製造業において製品を製造するのに必要になる「部品表」「部品構成表」のこと。Bill Of Materialsの略称

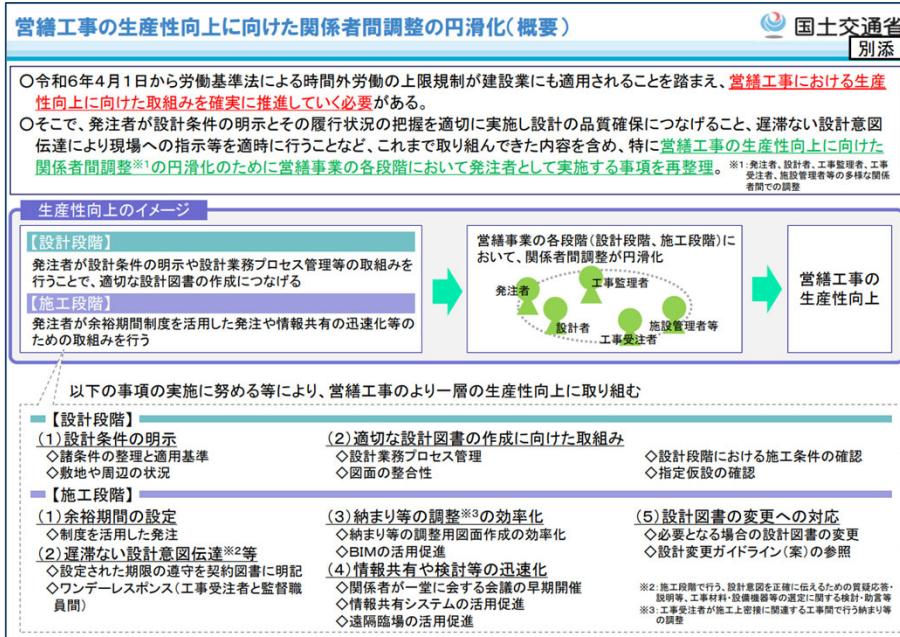
取り組みに関する視点（例）



視点① | 発注者の役割の変化（例）

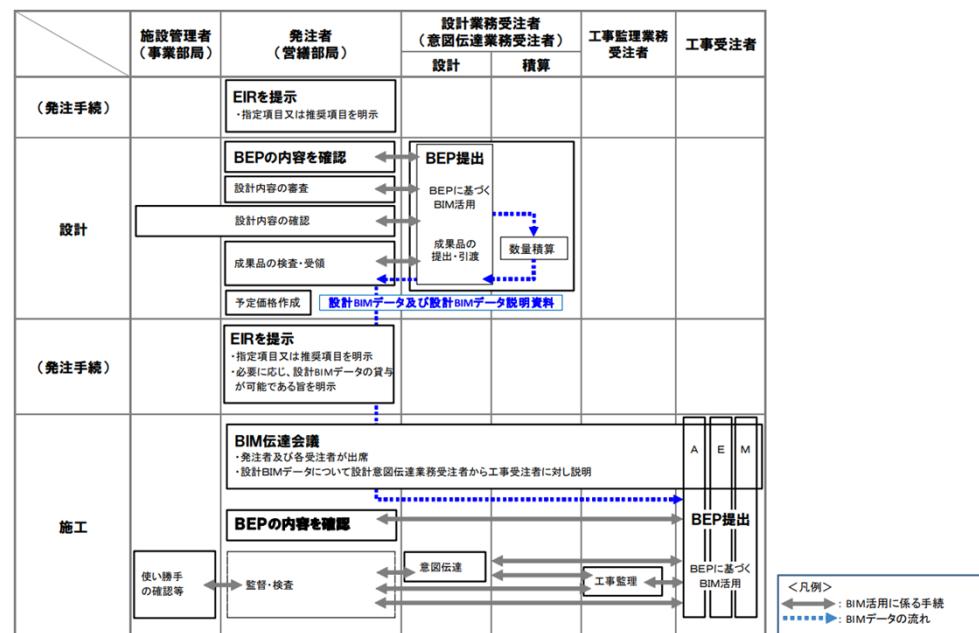
【生産性向上】入札契約方式の多様化にともない発注者の役割が変化（国交省大臣官房官庁営繕部）

関係者間調整の円滑化（2023.3）



▲ 営繕工事の生産性向上に向けた関係者間調整の円滑化

EIRの作成（2024.3）



▲ 官庁営繕事業におけるBIM活用に係る手続等の流れ

◎ 目的：設計業務及び工事の品質の確保及び事業の円滑化を図り、これらを通じて**生産性の向上に資すること**

図版出典（左）：「営繕工事の生産性向上に向けた取組みを確実に推進します～営繕事業の各段階において発注者として実施する事項を再整理～」（国土交通省、2023.3）

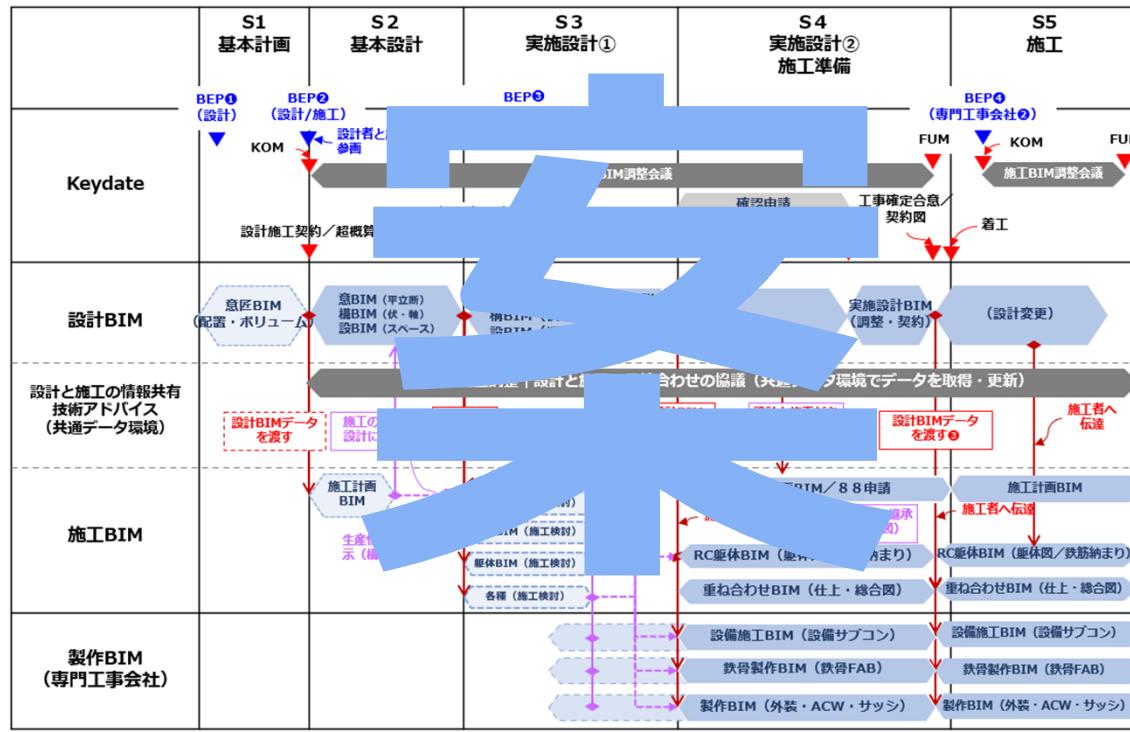
図版出典（右）：「官庁営繕事業におけるBIM活用実施要領（令和6年改定）」（国土交通省、2024.3）

施工BIMのインパクト2025

参考 | 施工BIMの領域が上流（設計）に広がる

施工BIMのフィールドが設計段階まで拡大の可能性

BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）

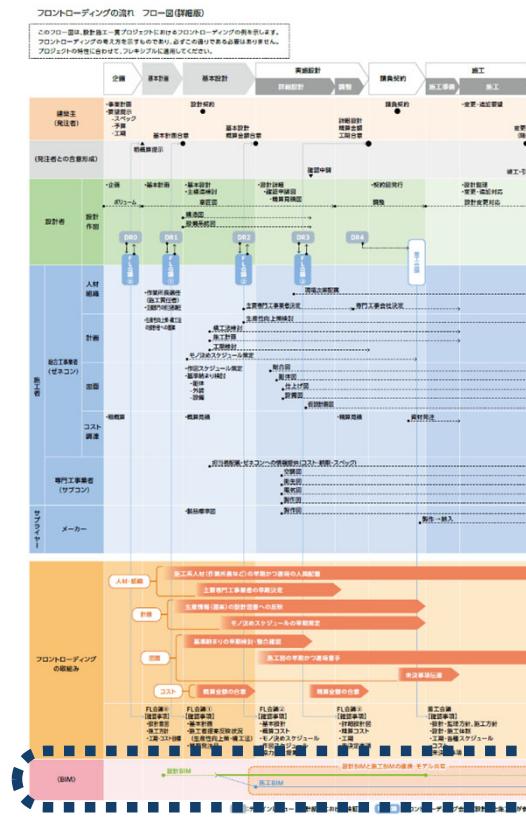


▲ 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（素案）

図版出典（左）：設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（第4版）素案、日本建設業連合会建築BIM合同会議、2025.11

図版出典（右）：フロントローディングの手引き2019、日本建設業連合会、2019.7

FLとの関係性 ▷ 発注者のリスク回避



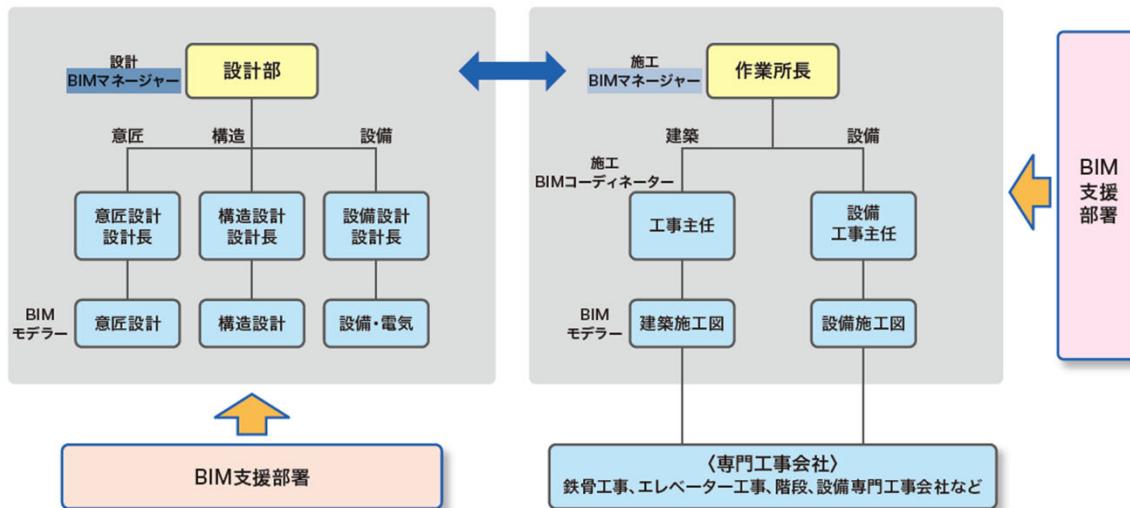
▲ フロントローディングのワークフロー

- ◎ 建築生産を考えると BIMのワークフローは、全体プロセスの切り取り
- ◎ 積算・発注・調整などの業務と連携できるプロセスとの融合が必要
- ◎ 発注者の参画度合によりPJの生産性に影響を与える可能性が大きい

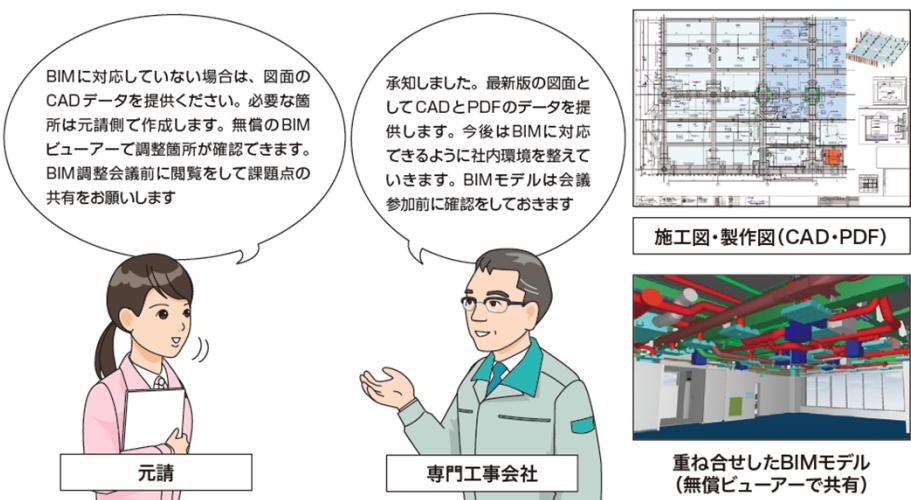
BIMは建築生産プロセスの一部を担う重要なツール。適用することでより高い効果が期待できる！

視点② | BIM未活用層の価値を最大化

【施工管理①】構造的な課題の払拭 | 推進部門と現業部門の距離感



▲ 施工BIMの取り組み体制（例）



▲ 専門工事会社にも効果の享受を考えているのかが問われる

- ◎ 多くの企業で「推進（支援）部門」が設置されたが、生産現場と推進の関係は……
- ◎ 施工BIMの取り組み主導者（BIMマネージャー）として作業所長の配置（理解）が有効
 - ▷ 現業との乖離が続いている傾向にある印象 ▷ 決定権を持つ方が主導しないと推進と現業の乖離が進む

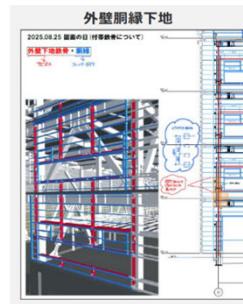
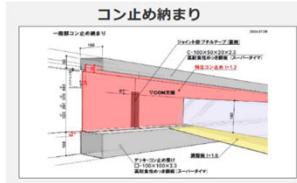
参考 | 作業所長が主導するBIMの活用（例）

日建連 第8回作業所長講演会 | BIMがすべての発表資料で取り上げられた（2025.10）

5. 技術力の承継

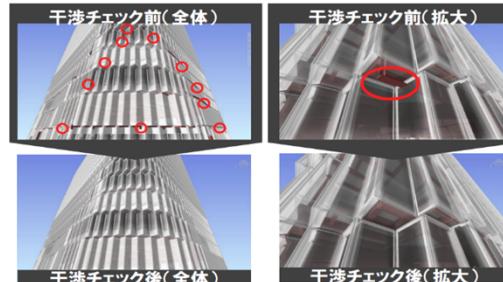
②品質の日（第2週目）

- ✓ 品質の重点ポイント
- ✓ 工程内検査項目の共有
- ✓ 絶対に施工確認してほしいポイント
- ✓ 検査、写真、チェックシート重要性
- ✓ チームの一員として責任感を持たせる



3-① 施工図改革

3.干渉チェックによる施工不具合の低減



第8回作業所長講演会

- NavisWorksにて干渉チェック
- ①各所外装と鉄骨との干渉を確認
- ②構造設計者へ確認
- ③鉄骨サイズの変更
- ④鉄骨業者へ指示
- ⑤再度修正モデルにて干渉チェック

一般社団法人 日本建設業連合会

23

3. 生産情報を設計に反映(実現までのプロセス)

③構造BIMデータを元にした整合確認



現場をフルBIMで
進める決意を伝える

15

▲ 安藤・間の場合

▲ 前田建設の場合

▲ 竹中工務店の場合

◎ 作業所長が中心となった「BIM」の取り組み ▷ 一方、次の担当現場でも継続できることが肝要！

▷ 職員に向けての教育・技術伝承にも活用できる！

▷ 作業所長の方針により「ノンBIMユーザー」と「BIMユーザー」が融合できる！

参考 | 管理や検査でのデータ活用

自分の業務が効率化できるのは当然として、次工程の技術者にも効果があるスタイルを追求

IV BIM 活用レシピ

17 出来形検査

- 床スラブコンクリートの出来形確認を題材とした活用
- BIMモデルと測定データを重ね合わせて確認作業を効率化

材料

- 建築モデル（検査部位のみで可）
- 数値モデル（検査部位のみで可）
- 出来形の三次元測量データ、モデル
- 基準点（BIMモデルと測量データを重ねるため）

準備

- 検査のための実測精度、その他条件を事前に協議
- 三次元測量機器を選定（例：トータルステーション、TLS¹¹、ドローバイメトロ）
- BIMモデルと測量データを重ね合わせるために現地に設置

手順

- 検査対象部位のBIMモデルを準備
- 打設後のコンクリート出来形と基準点を三次元測量
- 基準点を重ねてBIMモデルと測量データを重ね合わせ
- 専用ビューア用いて差分をカラーマップ表示するなど可視化、閲覧後に共有

◆BIM活用前後の比較

BEFORE		AFTER	
二次元野帳の表形式で 測量結果を表示		3Dカラーマップ表示 で差分を可視化	
検査結果を可視化 して確認		面的かつ網状的な検査 結果を確認	
検査結果をCADや 表形式で転記		専用のビューアを用いて 差分を自動計算	

◆活用シーン

- 施工実施状況の確認
- 専門工事会社との出来形、出来高共有
- 前作業の出来形に応じた精緻な作業指示

◆効果

項目	BIMの効果					
	取り組みやすさ	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	○	○	○	△	○	○

◆注意点・アドバイス

- 重ね合わせたための基準点設置やソフトウェア操作が検査精度に直結します。事前に注意して計画、協議しましょう。
- 測量機器、ビューアともに多くの市販品、無償ツールが存在します。目的や条件に応じて適切に選択しましょう。

¹¹ TLS:terrestrial laser scanner

12

IV BIM 活用レシピ

20 仕上げ検査

- BIMモデルの言語による情報を片手に仕上げ検査が可能！実現的にも分かりやすい！
- 重ね合わせ、閲覧用ビューア（例：BIM360Layout、PointLayout、CloudCompareなど）

材料

- 建築モデル（検査部位のみで可）
- 数値モデル（検査部位のみで可）
- 出来形の三次元測量データ、モデル

準備

- 指揮用アプリによりやすい仕上げのモデル分類を確実に反映したうえでモデル化を実施する（例：雲クロス、床シート・フローリング、サッセマわり、システムキティ等）
- ビューア検査アプリを早期に決定し、BIMモデルの情報連携に応じてモデルングループを決める

手順

- 検査対象部位のBIMモデルを準備
- 打設後のコンクリート出来形と基準点を三次元測量
- 基準点を重ねてBIMモデルと測量データを重ね合わせ
- 専用ビューア用いて差分をカラーマップ表示するなど可視化、閲覧後に共有

◆BIM活用前後の比較

BEFORE		AFTER	
2D上で手間的な 検査結果を表示		3Dビューアで高さ位置も 面積を表示	
検査結果を可視化 して確認		クラウドマイアーフォト で正確確認	
検査結果をCADや 表形式で転記		検査結果をBIMモデルに保存 し、操作性に優れ	

◆活用シーン

- ビューア内に含まれる設計図書等を活用した検査実施
- 専門工事会社の検査アプリを利用し検査箇所のデータベース化

◆効果

項目	BIMの効果					
	取り組みやすさ	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	○	○	○	△	○	—

◆注意点・アドバイス

- 3Dデータの操作でなるべく直感的で、検査スピードに追いつかない場合があります。まずは自由検査等で試行することをおすすめします。
- 検査アプリによってBIM対応の仕様が異なるため、早期に使用するアプリを選定し、モデルングループを確立しなければ、検査で活用する環境を構築できない可能性があります。

¹¹ TLS:terrestrial laser scanner

IV BIM 活用レシピ

18 鉄骨精度管理

- 実測データとBIMモデルを比較してリアルタイム精度管理

材料

- 建築モデル（検査部位のみで可）
- 数値モデル（検査部位のみで可）
- 出来形の三次元測量データ、モデル
- ベンチマークデータ（重ね合わせ用に現地へ設置したもの）

準備

- 検査のための実測精度、その他条件を事前に協議
- 三次元測量機器を選定
- BIMモデルと三次元測量データを重ね合わせるためのベンチマークを事前に選定

手順

- 検査柱のための実測精度、その他の条件を事前に協議
- 三次元測量機器を選定
- BIMモデルと三次元測量データを重ね合わせるためのベンチマークを事前に選定

◆BIM活用前後の比較

BEFORE		AFTER	
三次元野帳の表形式で 測量結果を表示		カラーマップ表示など で差分を可視化	
検査結果を可視化 して確認		鉄骨建方の各柱へ 手入力によるミスの削除	
検査結果をCADや 表形式で転記		操作性の高さ化、手 入力によるミスの削除	

◆活用シーン

- 建方実施状況の確認
- 建て入れ直し方針、方法の早期把握
- 監査者の情報共有

◆効果

項目	BIMの効果					
	取り組みやすさ	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	△	○	○	○	○	—

◆注意点・アドバイス

- 重ね合わせたためのベンチマーク設置やソフトウェア操作が検査精度に直結します。事前に注意して計画、協議しましょう。
- 測量機器、ビューアともに多くの市販品、無償ツールが存在します。目的や条件に応じて適切に選択しましょう。

14

▲ 鉄骨精度検査



▲ 施工BIMの活用ガイド
(第2版+増補版)

新たな知見や動向、
新たな事例などを
加えた（第4版）
を編集中です！

▷2026年度日建連
BIMセミナーで解説
(予定)

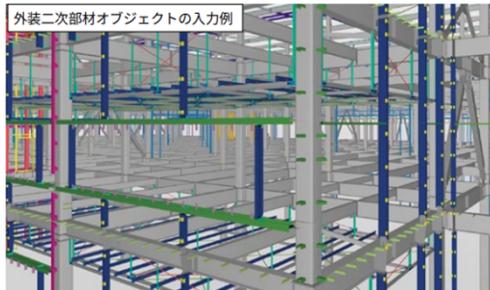
▲ 出来形検査

▲ 仕上検査

視点③ | 専門工事会社とWin-Winの関係

【施工管理②】元請はBIMのモデル提供依頼と図面承認の業務とが乖離していないか

②外壁二次部材の検討

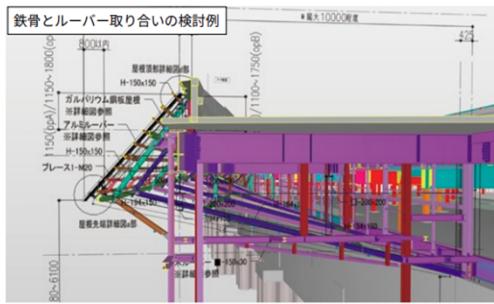


活用ポイントと課題

難易度: ★★☆ 中級者向き

- ・縁取り付、外壁自地割、建具位置など、外壁まわりの鉄骨二次部材の納まり検討を行える
- ・鉄骨の調整に時間が掛かるため、着手時期の明確化と作図時間の確保が必要
- ・鉄骨は部材数が多くなりデータ容量が大きくなりがちなため、ビューワでモデルを快適に閲覧できるツールが必須
- ・複数のモデルを重ねて行う調整は、各社がデータを共有・閲覧し、問題点を共有できる環境下で行わなければ時間をする

③複雑な外壁形状の二次部材の検討



活用ポイントと課題

難易度: ★★★ 上級者向き

- ・図面だけではイメージが出来ない多面体形状や曲面など複雑な形状の外壁や屋根、下地鉄骨のモデル確認
- ・製作上の要点(部材の座標点や折れ曲がる位置、ねじれなど納まり)を理解したモデル作成が必要で、施工知識とモデル作成スキルの難易度が非常に高いため、対応可能な専門工事会社が限られる
- ・関係する工種が増えてモデル連携する会社が増えると、工種間でモデルの重複が起らるいよう、各社間でモデルの作成区分を明確にする必要がある(工種間でモデルの重複がないよう管理が必要)

▲ 鉄骨2次部材の調整 (鉄骨FAB + ※※)

②鉄骨建方開始前

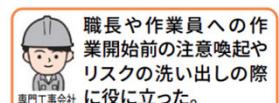
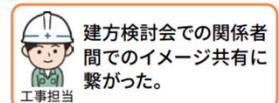


活用ポイントと課題

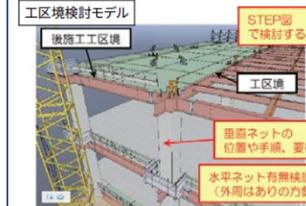
難易度: ★★★☆ 中級者向き

- ・段差部の開口はないか
- ・巾木の不足はないか
- ・開口部養生は問題ないか
- ・施工上邪魔にならないか
- ・手が届くのか
- ・適切な作業姿勢が取れるか
- ・鉄骨仮設の検討
- ・上下作業の有無の確認
- ・開口部の有無と対策
- ・昇降設備の確認と位置検討

活用に対する評価



③工区境検討 ④外装工事着手前検討

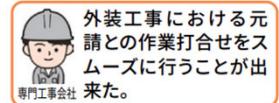
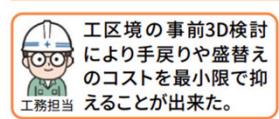


活用ポイントと課題

難易度: ★★★☆ 中級者向き

- ・鉄骨建方開始前のチェック項目に加えて…
- ・仮設盛替えの必要性があるか
- ・工区境の開口部対策は検討されているか
- ・工区境の作業を行う時の動線検討(ボルト締め、溶接作業等)
- ・後工区の墜落防止措置検討(水平ネット、スタンション等)
- ・前工区の仮設が作業の邪魔にならないか

活用に対する評価



25

▲ 鉄骨2次部材の調整 (鉄骨FAB + 他工種)

◎ 【目的】製造の工程確保（山崩し・材料調達・残業なしなど） | 【手段】BIMによるすり合わせ業務効率化

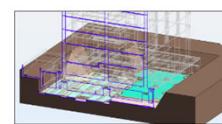
参考 | BIMモデル合意 | 管理・製造連携（例）

日建連BIMセミナー2025 | BIMモデル合意が多くみられる

取組みの概要

土工事連携編

現場及び専門工事業者による躯体図モデルとの整合性確認も実行



建設機械メーカー（コマツ名古屋）と連携し、2Dの根切図にレベルをあたえて3D化、建機モニター上のモデルの視認性を向上させた。



▲ 挖削（大成建設の場合）

取組みの効果

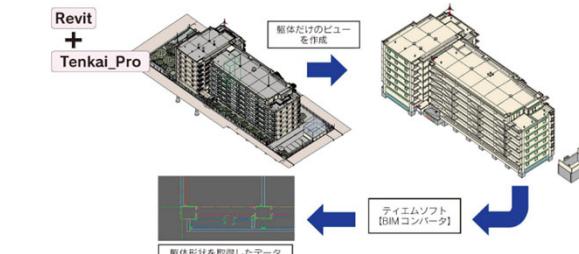


効果
設備フロントローディングの実施により設計時点の問題点を早期に明確化・把握することができ、重大な問題の解決につながった

▲ 設備サブコン（西松建設の場合）

取組みの概要

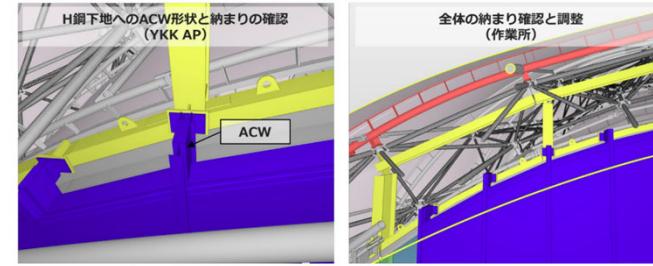
① 躯体モデルから抽出したデータと型枠ソフトとの連携



▲ 型枠（長谷工コーポレーションの場合）

説明1 | BIMモデル合意（トラス・膜・ACW）

各工種が取り合う箇所を関係者がBIMモデルで確認しながら協議・調整を進める
トラス・膜・ACWの納まり調整 多くの情報をBIMで一元化することで情報を整備

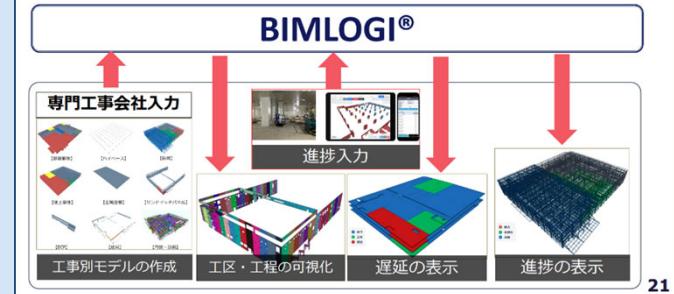


▲ 鉄骨FAB・ACW（前田建設の場合）

管理・製造連携の事例もあった

② 自社開発ソフト「BIMLOGI®」による工事進捗と出来高の4D管理

専門工事会社によるモデル作成と進捗入力



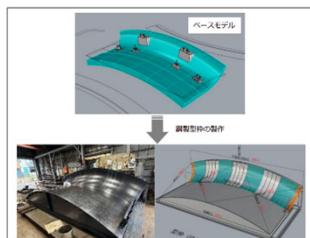
▲ 進捗管理（鹿島建設の場合）

③ 製作連携

背景と課題
PCメーカー（高橋CW）が、3D対応可能な型枠業者（Rhinoceros活用実績あり）を選定。データのロスがなく連携ができる候補であった

取組内容
生産設計段階から構築したベースモデルを、型枠製作側に正の情報源として提供。ACCでベースモデルを含めた建物モデルを共有した。

成果・効果
ベースモデルをダイレクトに型枠製作に活用

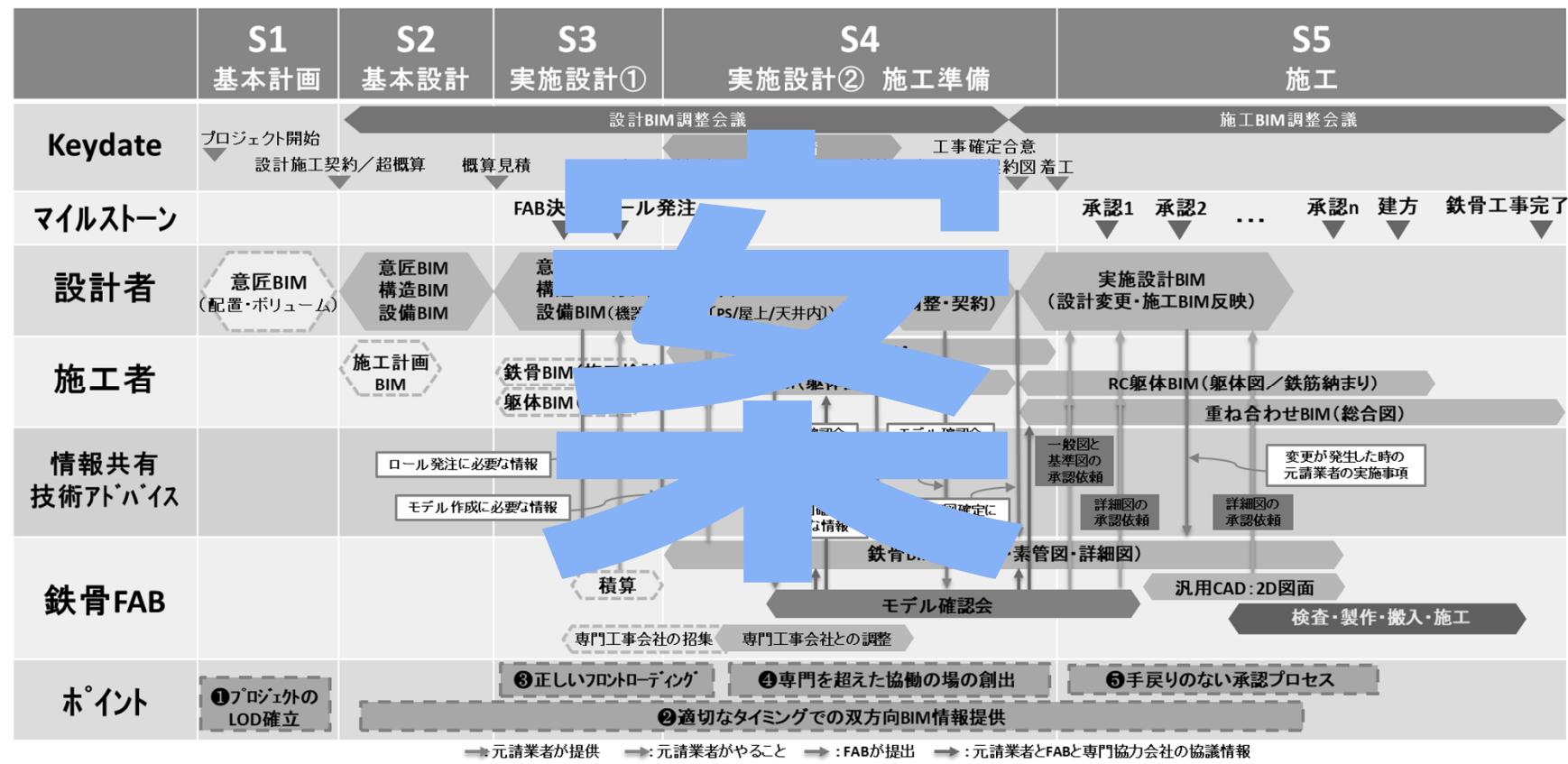


ベースモデルを共通基盤とすることで、製作の質とスピードが大きく向上した

▲ 製造とのデータ連携（五洋建設の場合）

参考 | 次工程（他工種）とのデータ連携

自分の業務が効率化できるのは当然として、次工程の技術者にも効果があるスタイルを追求



お互いにWin-Winになる業務の進め方を鉄骨FABの方々と一緒に検討を進めています！

▷2026年度日建連BIMセミナーで解説（予定）

▲ 鉄骨工事におけるBIMワークフロー（案）

図版出典：日建連BIMデータ連携WG活動成果（素案）、日本建設業連合会BIM部会BIMデータ活用WG、2025.11現在

施工BIMのインパクト2025

視点④ | 建築BIM推進会議（ガイドライン、他）

ガイドライン改訂WGに参画 | 建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン

▲ ガイドライン改定方針に日建連の活動成果が参照されている（部分）

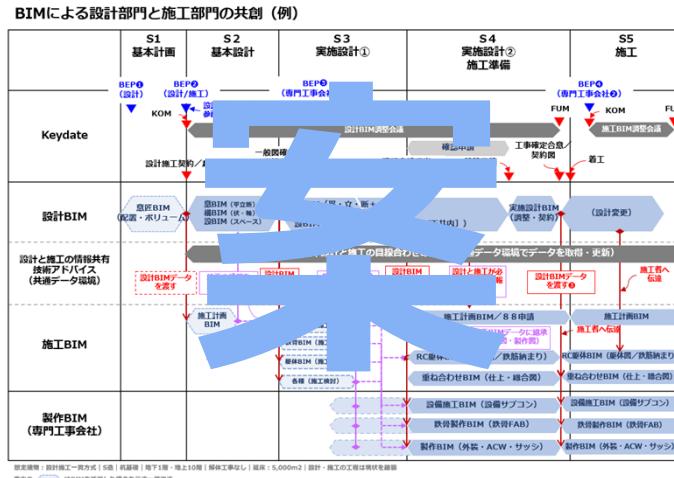
◎ 今後も建築BIM推進会議などと足並みを揃え、日建連の成果物にも反映・連携をすすめます

おわりに



原点回帰+a | 現業の知見+新たな技術と併走

原点回帰 | ワークフロー



▲ 設計施工一貫方式での一例

BIMの〈作成〉から情報（データ）の〈連携・活用〉への移行

◎ 生産現場における技術の定着は「シーズ」のアプローチだけでは不十分

- ▷ 推進者が先陣を切って自らが実際のプロジェクトで運用してみる意欲も必要（工務的な知見が重要）
- ▷ 生産現場における「ノンBIMユーザー」が意識しなくても扱える手法との組み合わせ（新技術との連携）

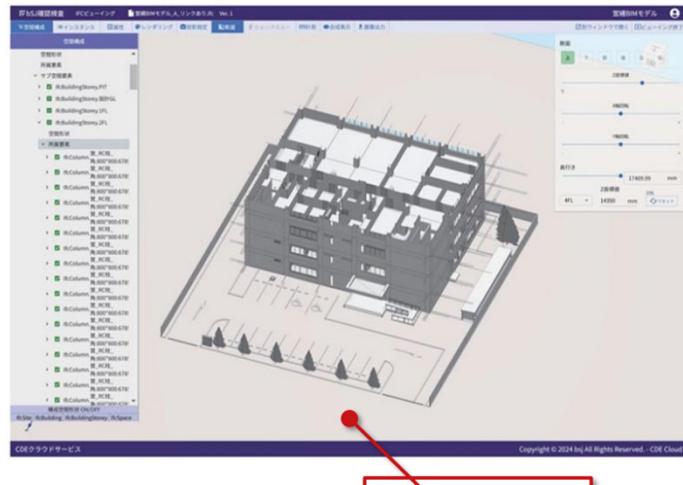
原点回帰 | Win-Winの関係



▲ ノンBIMユーザーも活用する環境

連携する相手の立場にとっても効果があることが大前提。重ね合わせの可視化の先へ

+a | 共通データ環境 (CDE) など



▲ 確認申請BTM

3Dモデルを閲覧

図版出典：建築確認におけるBIM図面審査を実現するための申請・審査環境に関する説明会～BIM図面審査及び確認申請用CDEの概要～、建築行政情報センター、2025.05

まとめ | 確立（2025）から定着（2030）へ

日建連のBIMロードマップと長期ビジョン



定着に向けて（2030）

継続

- ◎ ワークフロー（データの連携）
 - ▷ 自分はもちろん相手にも効果
- ◎ BIMデータ（作成体制・作成方針）
 - ▷ 設計者・専門工事会社との連携

受容

- ◎ BIM未活用層（アプローチ）
 - ▷ 若手は令和の教育（デジタル世代）
- ◎ 管理・製作・検査（フィジカル）
 - ▷ 他ソフト等とのデータ連携

本セミナーにおける各セッションの位置づけ

現状
推進

発注者／関係者

設計BIM
(ASmep)

施工BIM
(元請)

製作BIM
(専門工事会社)

維持管理・運用BIM
(作成者)

▲ BIMワークフロー (概要)

CDE (共通データ環境/ビューア)

設計BIM/ICT

計画変更BIM/ICT

竣工
BIM

施工計画BIM/ICT

躯体・鉄筋BIM/ICT

総合図BIM/ICT

完成施工
BIM
(自社内)

製作BIM

図面
(元請用)

製造用図面
(自社製造用)

工場
管理

維持管理・運用
BIM

国の施策・方向性

国土交通省 住宅局建築指導課

BIMの現在・ビジョン

日本建設業連合会

CDEの活用・構築

西松建設

施工BIMの社内展開手法

鴻池組

事例

設計者と施工者の連携①

美保テクノス + 梓設計

設計者と施工者の連携②

平山建設 + がもう設計事務所

内装工事でのデータ活用

丹青社

発注者のBIM

阪急阪神不動産



資料の公開先 | 日建連BIM部会

Google 検索

一確かなものを地球と未来に
一般社団法人 日本建設連合会
JFC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

日建連について | 会長等コメント・提言・要望 | 刊行物・資料 | 建設業を知る、学ぶ

ARCHITECTURE 建築

日建連 > 建築 > BIM部会

BIM部会

- 部会紹介
- セミナー**
- 刊行物
- 報告書・その他資料
- 意見交換会議事録
- 設計/施工/設備/ICT/他

施工BIMのスタイル 2020
購入申込はコチラ

施工BIM指南書
『施工BIMの活用ガイド』PDF無料公開中

日建連の建築BIM 定着に向けたロードマップ

日建連建築BIMワークフロー (第2版)

最新ニュース

- 2023.06.30 『設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー (第2版)』、EIR 【報告書・その他資料】のひな形、BEPのひな形を掲載しました **NEW**
- 2023.06.28 「2023年度日建連BIMセミナー」資料を掲載しました **NEW** 【セミナー】
- 2023.05.15 ★懇親募集★日建連BIMセミナーの開催について 【セミナー】

部会紹介 **セミナー** 刊行物

報告書・その他資料 意見交換会議事録 設計/施工/設備/ICT/他

施工BIMのインパクト (主催: 日刊建設通信新聞社)

○ 講演資料等

開催年度	サブタイトル
2024年度 NEW	生産性向上の未来を拓く
<u>2023年度</u>	現場デジタル化への道筋
<u>2022年度</u>	生産性向上から建設DXへ
<u>2021年度</u>	-
<u>2020年度</u>	-
<u>2019年度</u>	生産性向上の未来を拓く
<u>2018年度</u>	生産性向上の未来を拓く
<u>2017年度</u>	生産性向上の未来を拓く
<u>2016年度</u>	生産性向上への挑戦
<u>2015年度</u>	-

○ 施工BIMのインパクト2024

2024年11月7日 (木) にWEB開催された本セミナーにおいて、日建連BIM部会 曽根部会長が基調報告しました

NO.	資料名	会社名	登壇者	DL	備考
001	基調講演1 施工BIMの最新動向2024	日本建設業連合会 (前田建設工業株式会社)	曾根 巨充		-
002	基調講演2 BIM普及に向けた住宅局施策の最新動向	国土交通省	平牧 奈穂		-
003	大阪・関西万博大屋根リングにおけるBIMを中心としたフロントローディングによる生産性向上	株式会社竹中工務店 鉄建工業株式会社 SUDARE TECHNOLOGIES 株式会社 SMB建材株式会社	中島 正人 永松 裕介 丹野 貴一郎 三河尻 明子	 	-
004	Hi-BIM®～ヒロセBIMについて～	ヒロセ株式会社	加藤 俊		-
005	施工に役立BIM活用法「設計から現場へ」	株式会社アルク設計事務所 小川工業株式会社	今西 淳夫 平塚 健太郎	 	-
006	中小企業のBIM推進～会社に合った成長とBIM文化の作り方～	株式会社澤村	徳永 康治		-
007	ISO19650・CDE～意思決定プロセスのDX化～	三建設機械株式会社	柳原 正也		-
008	プラットフォームを活用したBIMを含む各種データ連携	旭化成株式会社	江崎 和文		-
009	維持管理フェーズにおけるBIMの有効活用	鹿島建物総合管理株式会社	磯貝 淑之		-
010	質疑応答	-	-		-
-	講演内容が掲載された新聞記事	日刊建設通信新聞社	-		-

設計施工一貫方式における
BIMのワークフロー (第2版)

2023 (令和5) 年6月

一般社団法人 日本建設連合会
建設BIM 合同会議

図版出典: 日建連BIM部会HP

施工BIMのインパクト2025



確かなものを 地球と未来に
一般社団法人 日本建設業連合会
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS